教育センターだより

12月

「師走」
12月は、僧侶が忙しく家々を訪問し読経したことが由来。

４０４号　令和５年１２月１日発行

砺波市教育センター
〒939-1398 砺波市栄町７番３号
TEL 33-1559　FAX 33-1157
E-mail tonami-ec@tym.ed.jp
HP はこちら

学校全体が「多様な学び場」

文部科学省は不登校対策として、「校内教育支援センター」の設置を含む「COCOLO プラン」を発表しました。

本市は、学校全体が子供たちの学びの場であるという考えのもと、温かい学校づくりを推進しています。教室に入りづらいときは、相談室や図書室等で過ごすことができ、どの先生も温かく声をかけてくれます。また、友達と関わりたい、みんなと学習したいというときは、自分の学級に戻ります。ですから、学校全体が「校内教育支援センター」と言えます。

教職員チームの在り方や関係機関との連携等について工夫を重ね、すべての子供たちの学びが保障されるよう取り組んでいきたいと考えます。

研修のあしあと

4年・5年次　若手研修会

期日：令和５年１１月１０日（金）場所：砺波市役所

４年次・５年次の先生方が集まり、自分のこれまでの実践を振り返り、成果と課題を共有しました。ICT を活用した授業の振り返りや個別最適な授業の在り方等、新しい気付きでいっぱいでした。

2年・3年次　若手研修会

期日：令和５年１１月２２日（水）場所：砺波市役所

２年次・３年次の先生方には３～４人でチームになってもらいました。「となみ授業スタンダードⅡ」達成のポイントについてチームごとに考え、最後には参加者全員で「究極のポイント集」を作成しました。協働的な学びを体験することにもつながりました。

学校訪問研修・教育長訪問より〔Part２〕

２学期も学校訪問研修や教育長訪問から、授業改善に向けて学校全体で一丸となって取り組んでおられることを感じました。

個別最適な学び・協働的な学び

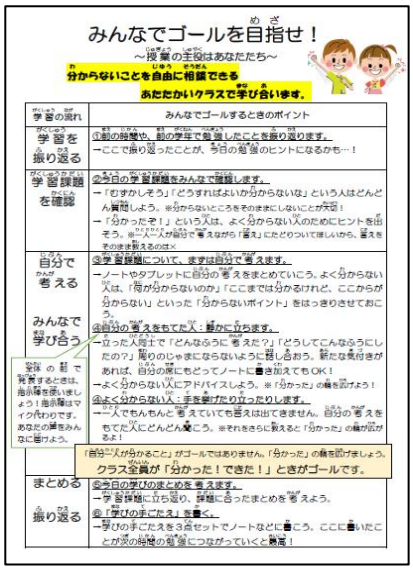
・学習形態を工夫し、子供たちが「分からない」「教えて」と言いやすく、協働的に学べる環境をつくっている。
・机間指導によって、子供たちが関われるように促したり、個別に解き方を指導したりしている。
・教師の立ち位置を工夫し、子供たち全体を観察しながら適切に支援している。

クラウドを活用した複線型の授業

・端末で友達の考えや振り返りを自由に見ることができるようにし、それを参考にしながら自分の考えをもつことができるようにしている。

子供たちとともにつくる授業

・子供たちの振り返りから解決したい課題をみんなでつくったり、板書の一部を子供たちに任せたりすることで、子供たちの問題意識を高めている。
・「となみ授業スタンダードⅡ」について子供たちと話し合うことで、学び合いの仕方を共通理解し、よさを実感できるようにしている。
（「となスタ」子供版を作成している学校もありました。）


みんなでゴールを目指せ！
～授業の主役はあなただたち～
分からないことを自由に相談できる
あたたかいクラスで学び合います。

学習の流れ	みんなでゴールするときのポイント
学習を振り返る	①前の時間や、前の学年で勉強したことを振り返ります。 →ここで振り返ったことが、今日の勉強のヒントになるかも…！
学習課題を確認	②今日の学習課題をみんなで確認します。 →「むずかしそう」「どうすればよいか分からないな」という人はどんどん質問しよう。※分からないところをそのままにしないことが大切！ →「分かったぞ！」という人は、よく分からない人のためにヒントを出そう。※一人で人が納得で考えながら「答え」にたどりついてほしいから、答えをそのまま教えるのは×。
自分で考える みんなで学び合う	③学習課題について、まずは自分で考えます。 →ノートやタブレットに自分の考えをまとめていこう。よく分からない人は、「何が分からないのか」「ここまでは分かるけれど、ここからが分からない」といった「分からないポイント」をはっきりさせておこう。 ④自分の考えをもてた人：仲間に広げます。 →立った人同士で「どんなふうに考えた？」「どうしてこんなふうにしたの？」聞くのじゃまにならないように、聞き合おう。新たな気付きがあれば、自分の席にもどってノートに書き加えてもOK！ →よく分からない人にアドバイスしよう。※「分かった」の輪を広げよう！ ⑤よく分からない人：手を挙げたり立ったりします。 →一人でもんもんと考えていても答えは出てきません。自分の考えをもてた人にどんどん聞こう。※それをきちんと教えると「分かった」の輪が広がるよ！ 発表の前で発言するときは、指示棒を使いましょう！指示棒はマイクのかわりです。あなたの考えをみんなに届けよう。
まとめる 振り返る	「自分一人が分かること」がゴールではありません。「分かった」の輪を広げましょう。 クラス全員が「分かった！できた！」ときがゴールです。 ⑥今日の学びのまとめを考えます。 →学習課題に立ち返り、課題にふさわしいまとめを考えよう。 ⑦「学びの手ごたえ」を書く。 →学びの手ごたえをきっかけセットでノートなどに書こう。ここに書いたことが次の時間の勉強につながっていくと最高！

研究会の協議会より

端末を使用し、協議を進める学校が増えてきました。短時間で授業の改善点について話し合い、提案授業から自分自身の行動目標を立てる協議会を重ねることで、同僚性が高まり、学校全体にまとまりが感じられるようになります。

お知らせ

・教育センターでは、不登校に関する相談を受けています。また、「サポート会議」を実施しています。富山大学保健管理センター客員准教授　西村　優紀美先生をスーパーバイザーとし、児童生徒面談・保護者面談・ケース会議などを通して、具体的な支援をしてくださいます。希望があれば教育センターにお知らせください。